

やる気、元気、本気、人気を

万協製薬の松浦社長

独自の経営法紹介

本紙政経懇話会

【津】伊勢新聞政経懇話会九月例会が二十六日、津市大門の津都ホテルであった。万協製薬(多気町仁田)の松浦信男社長が講演し、同社独自の経営法を紹介。目指すべき社長像について「マラソンに例えると、トップを励ましたり、ヒリを応援する『伴走型リーダー』」とし、「やる気、元気、本気、人気の四気が必要。日本の経営者の人には、人気をもっと上げてほしい」と話した。

同社は神戸市に松浦社長の父が創業した。松浦社長



講演する松浦社長＝津市大門の津都ホテルで

は二十歳の時に入社したが、本社・工場が平成七年の阪神・淡路大震災で全壊。翌八年に社長に就任し、多気町へ本社・工場を移転した。今年三月期の売り上げは前年度比22%増の三十二億四千九百一十万円だった。

松浦社長は被災後、会社再建を決意した理由を「どうしても自分のやってきたことを途中でやめるのが嫌だった」と説明。一方で、当時の心境を「地震から十年ぐらいいは誰からも見向きしてもらえなかった。トラッ

クレースで足をくじいてしまったのに、棄権できないような気持ちだった」と振り返った。

現在の工場の機械は移動式だといいい、「何かあったら機械を移動させ、被災していない工場に行くことができる」と、自然災害への備えを紹介した。

社員が、会社を大事にするはずがない」と力説。「社員を馬車馬のようにこき使ったら、その社員がお客様を幸せにするはずがない。経営は社員に足して性善説であるべき」と述べた。

また、無借金経営に固執せず、借金をしても投資を続けるべきだと主張。「お金を儲けるのは善」「飽きることは変化を作り出すチャンス」などと説いた。

(森川静香)